



1. 地区の概況

- 1) 岡村地区は、磯子区の北西に位置し、南区と港南区に接しています。地区の面積は約 124ha です。
- 2) 人口は約 14,100 人です。緩やかに減少する傾向がありましたが、平成 23 年以降は減少数も小さくなり安定する傾向が見られます。
- 3) 世帯数は約 6,300 世帯です。世帯数は安定し、緩やかな増加が続いています。
- 4) 平均世帯規模は 2.25 人/世帯です。縮小傾向が続いているものの、汐見台地区、上笹下地区に次いで大きく、区の平均(2.10 人/世帯)を上回っています。

●人口・世帯数の概要

	平成18	平成23	平成28	平成18 ~23年	平成23~ 28年	平成23 年比率 (%)	平成28 年比率 (%)	平成28年 区平均比 率(%)	平成28年 市平均比 率(%)
人口 (人)	14,690	14,189	14,132	▲ 501	▲ 57	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	2,028	1,809	1,736	▲ 219	▲ 73	12.7	12.3	12.0	12.7
(内0~5歳) (人)	747	645	647	▲ 102	2	4.5	4.6	4.9	4.9
15~64歳人口 (人)	9,750	9,041	8,580	▲ 709	▲ 461	63.7	60.7	61.4	63.7
(内20~24歳) (人)	804	665	662	▲ 139	▲ 3	4.7	4.7	4.8	5.1
(内25~39歳) (人)	3,087	2,575	2,264	▲ 512	▲ 311	18.1	16.0	17.9	18.5
65歳以上人口 (人)	2,912	3,339	3,816	427	477	23.5	27.0	26.6	23.6
(内65~74) (人)	1,752	1,797	1,961	45	164	12.7	13.9	13.8	12.4
(内75歳以上) (人)	1,160	1,542	1,855	382	313	10.9	13.1	12.8	11.2
世帯数 (世帯)	6,111	6,209	6,294	98	85				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.40	2.29	2.25					2.10	2.13

* 「町丁別世帯と男女別人口」「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

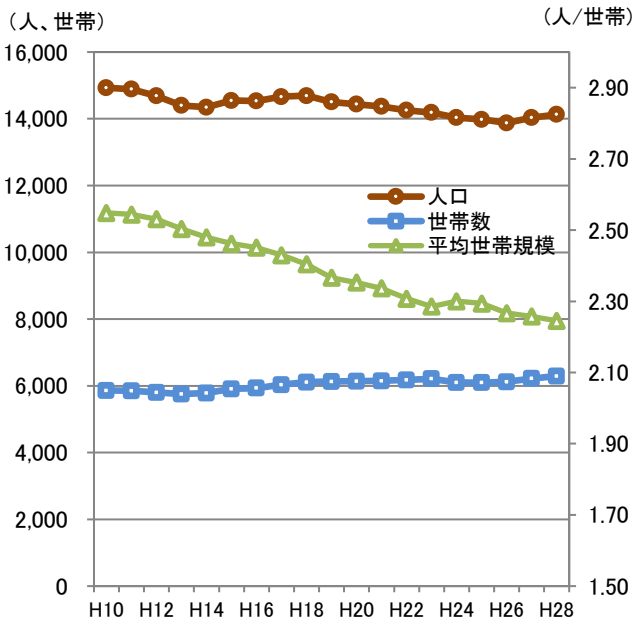
一人暮らしの世帯の比率が 28.1%で市の平均 35.9%と比べて、低くなっています。

- 5) 丘の上にてきた戸建て住宅が多い住宅市街地です。住宅の建て方別居住世帯人員の比率をみると、戸建て住宅に居住する世帯の比率は57.8%と高くなっています。(区平均は36.4%)
- 6) 年齢構成は、区平均と比較して生産年齢人口(15～64歳)がやや少なく、年少人口(0～14歳)や高齢人口(65歳以上)はわずかに多くなっています。
- 7) 居住歴が20年以上の人口の割合が32.7%と高くなっています。(市の平均は23.7%)
- 8) 平成18～23年の期間には、20～34歳を中心とする

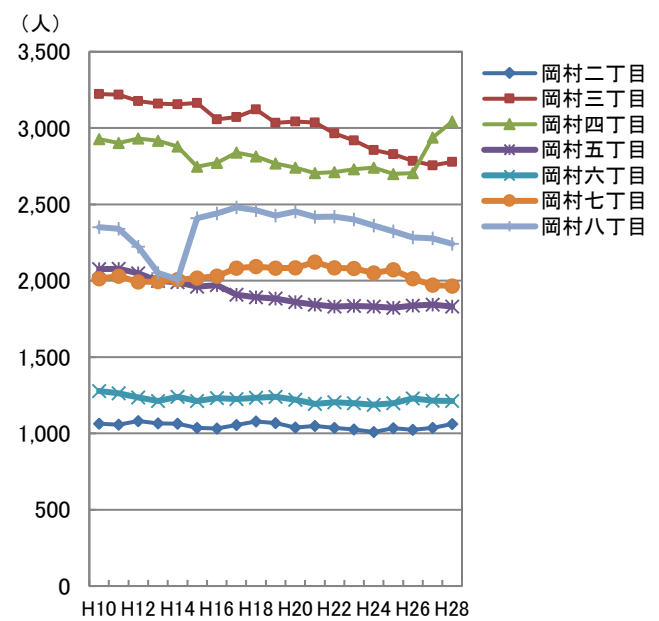
すべての年齢で推移率が1.0を下回っていました。平成23～28年には45歳未満の年齢層で推移率が上昇し、30～44歳と20歳未満の年齢層では推移率が1.0を上回るようになりました。子育て世代(25～39歳)の減少が止まり、乳幼児(0～5歳)が増加する傾向が見られます。6歳未満のいる世帯の比率も上昇しています。

9) 岡村六丁目に岡村公園、岡村八丁目には久良岐公園があり、自然が多い地区です。

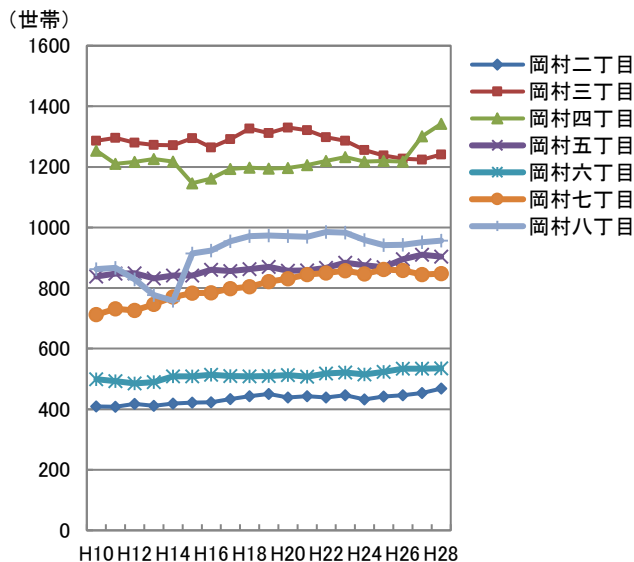
●地区の人口、世帯数の動向



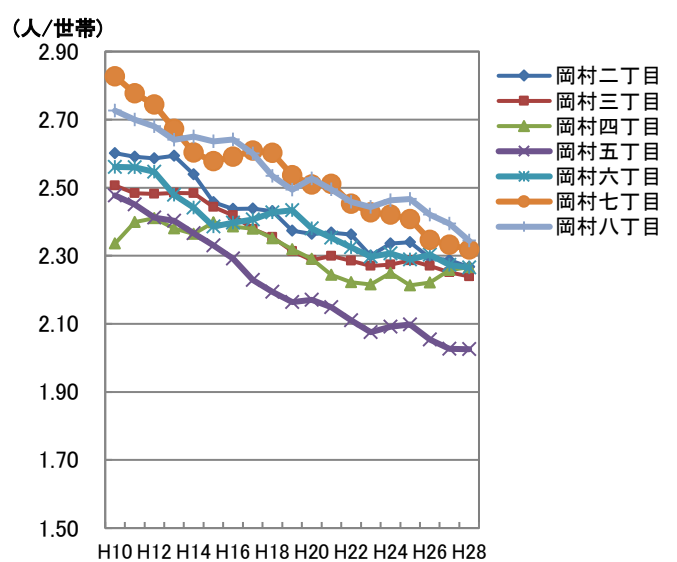
●町別・人口の動向



●町別・世帯数の動向



●町別・世帯規模の動向



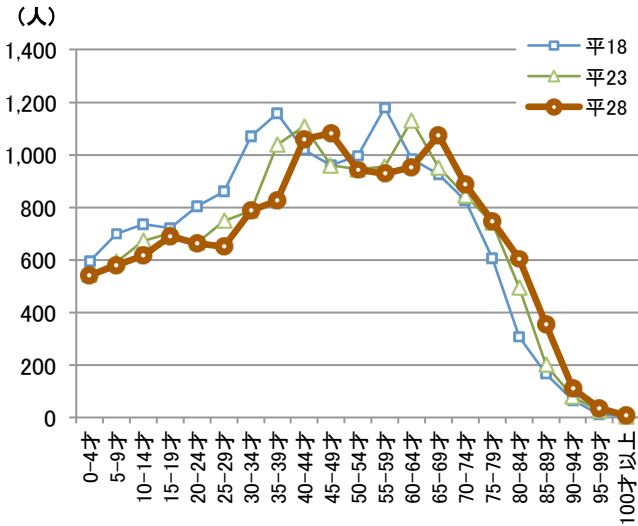
●施設などの分布状況

岡村地区



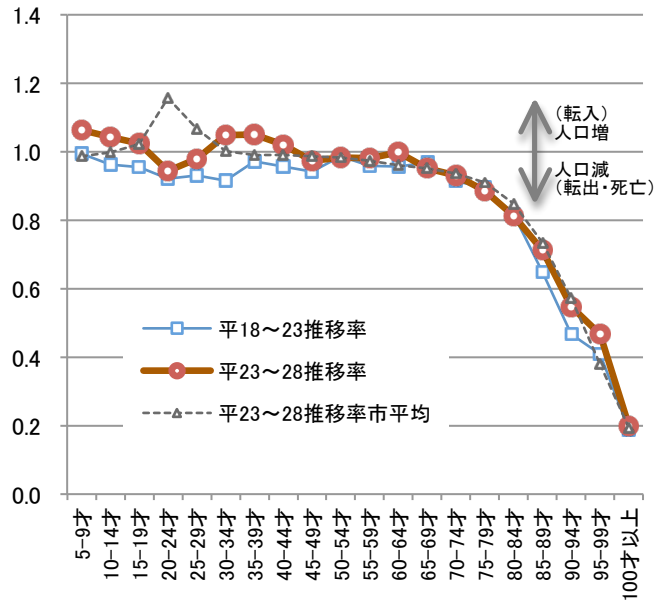
*都市計画基礎調査結果 平成25年(横浜市建築局)を活用した

●年齢5歳階級別人口の変化



*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

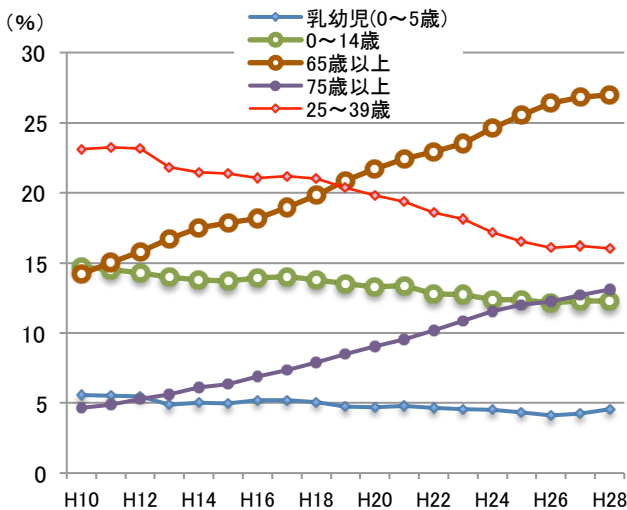
●年齢5歳階級別人口の推移率



*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

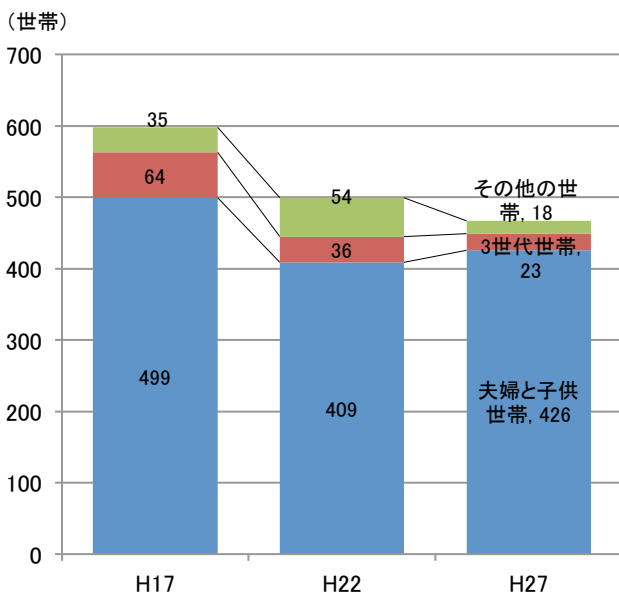
*推移率：この場合は、年齢の5歳別人口が、死亡、転出入によって5年後にどう変化するかをみる指数。現在の5歳階級別の人口÷5年前の5歳若い5歳階級の人口

●乳幼児・高齢者比率等の動向



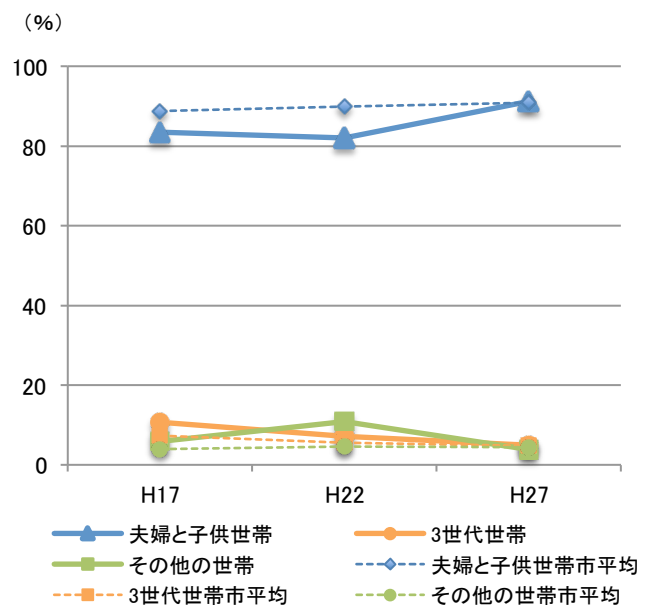
*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の動向



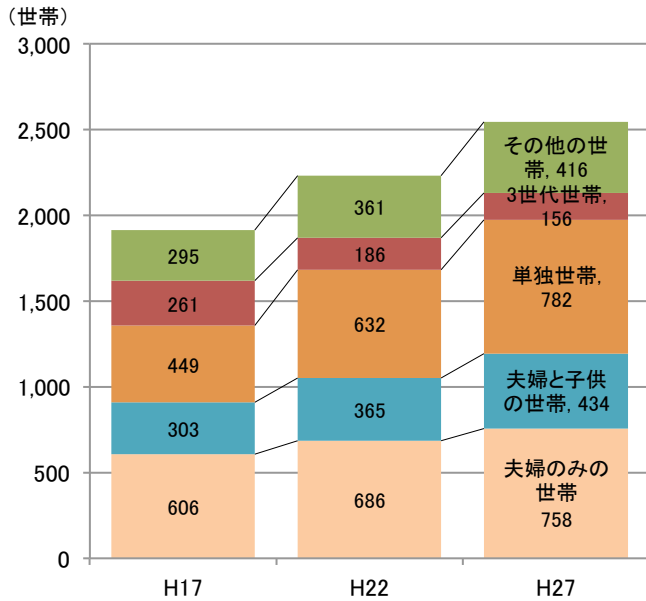
*各年「国勢調査」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の比率

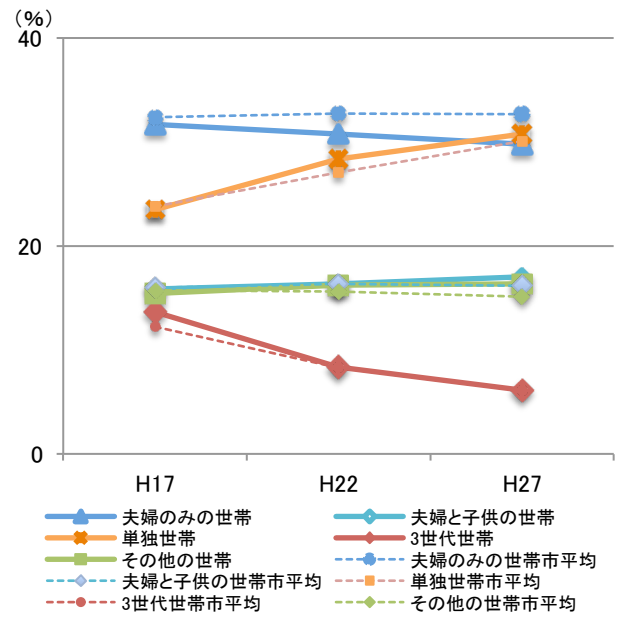


*各年「国勢調査」による

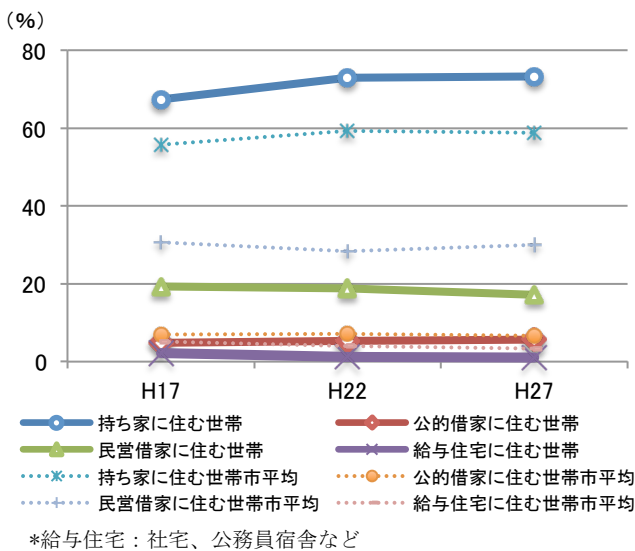
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の動向



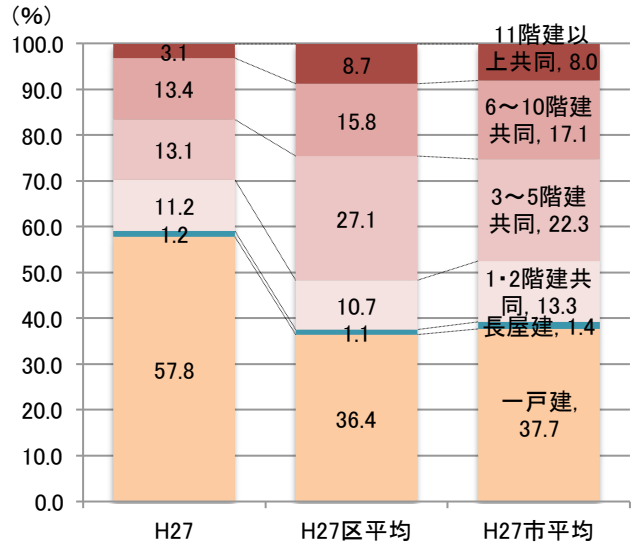
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の比率



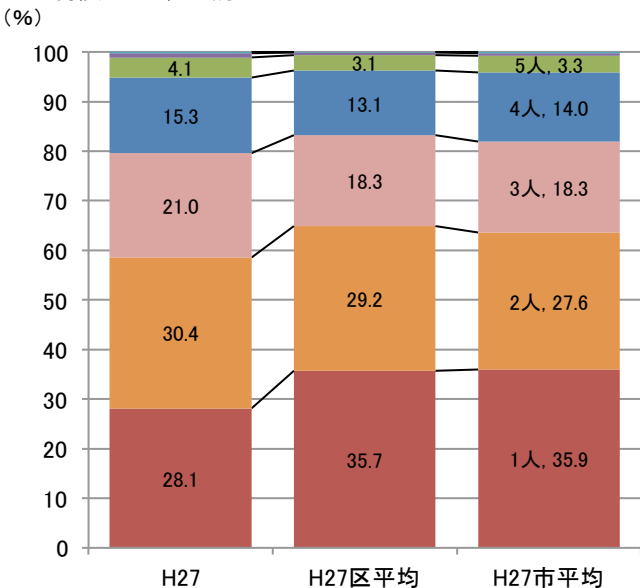
●住宅の所有関係別世帯の比率



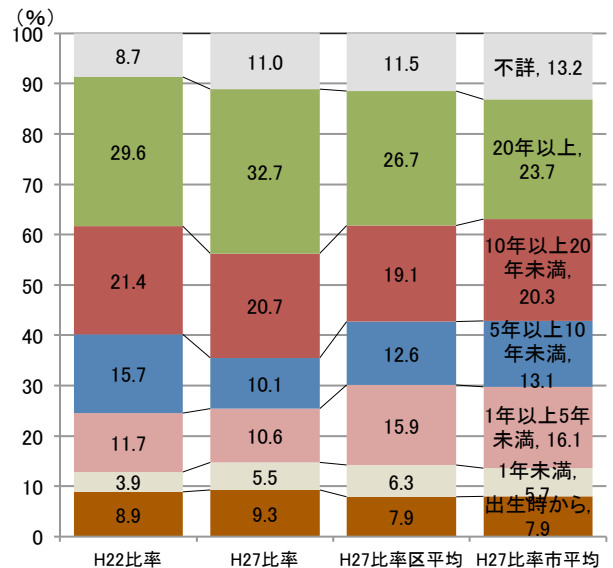
●住宅の建て方別世帯の比率



●規模別世帯の構成



●居住歴別人口の比率



2. 地区の居住者特性

2.1 地区内の人口は概ね安定しているが、平成 27 年以降、岡村四丁目では人口、世帯が増加している。

1) 地区内では、岡村三丁目、岡村七丁目、岡村八丁目では人口が減少する一方、岡村四丁目では人口が増加しています。

人口が減少している町では、20 歳代、30 歳代の人口が流出しており、七丁目、八丁目ではこの傾向がはっきりしています。世帯規模が大きく、規模の縮小傾向が見られることから、20～30 歳代が就職や結婚などにより自立し転出する等、世帯分離により人口減少が進んでいると考えられます。

2) 一方、岡村四丁目では、逆に 20 歳代、30 歳代の人口が転入増加しています。

2.2 平均世帯規模の縮小傾向が続いているが、規模の大きい世帯が多い。

1) 世帯規模の縮小傾向は続いているようですが、戸建て住宅に住む世帯の比率が高く、居住歴が長い人の割合が多くなっており、世帯規模が大きい町が多くなっています。

中でも、平均世帯規模が大きいのは、岡村七丁目（2.32 人/世帯）と岡村八丁目（2.34 人/世帯）です。

2) 地区全体として緩やかに人口が減少するとともに、年少人口と生産年齢人口の減少、高齢者の増加が続いています。

3) 岡村八丁目では、公的借家の居住世帯比率が 34.0% と高くなっています。（区平均は 8.8%。地区の平均は 5.3%）

2.3 岡村五丁目～七丁目では、居住者の居住歴が長い居住者が多く、高齢者の比率も高くなっている

1) 居住歴の長い人の比率が高くなっています。中でも、岡村七丁目では居住歴が 20 年以上の人の割合が 42.0%に達しています。（区平均は 26.7%。地区の平均は 32.7%）

2) 高齢化率は岡村五丁目（31.5%）、岡村七丁目（30.5%）で高くなっています。

2.4 人口が増加する要因と減少する要因が混在しており全体として人口は安定した状態が続く可能性があるが、高齢者、特に後期高齢者の増加は今後も続く

1) 世帯規模が大きく、世帯分離により人口減少が進む可能性が残っています。一方で、44 歳以下の人口推移率が上昇し、減少傾向が弱まり、30～44 歳とその

子の世代の推移率が 1.0 を上回るようになってきており、現在の傾向が続けば、人口、世帯数とも安定した状態が続く可能性があります。

3) 年齢構成やその変化をみると、高齢者は安定化しますが、現在の傾向が続けば、75 歳以上の高齢者は今後 10 年間は増加が続き、平成 32 年頃まで緩やかに増加し続けると考えられます。

4) 全体として、人口や世帯数が安定した状態が続くものの、高齢化が進行し、75 歳以上の高齢者が増加していくと考えられます。